

# WEB formosus(フォルモス) vol.40

formosusとはラテン語で「美」を意味します。古代ローマに造られた建築の美しさを表現したものです。東北の豊かで美しい自然を生かした社会資本整備には「用・強・美」が必要であり、集大成された「美」を追求していきたいとの思いで本誌のタイトルにしています。

国土交通省 東北技術事務所 電子広報誌 WEB formosus(フォルモス)発行事務局 発行2020.11.27



## 迅速な災害活動を支援する『災害対策用機械』

(東北技術事務所保有)

### 目次

	ページ
◆「令和2年度日本建設機械施工大賞」で優秀賞を受賞！！－近接車両検知システムの開発－	2
◇東北の骨材を使用したコンクリートのクリープ・乾燥収縮に関する共同研究の紹介	3
◆基礎技術講習会「第2回土木」、「ICT・UAV」を開催～官民共同で若手技術者を育成！	4～5
◇i-Construction技術講習会	6
◆インターンシップ報告	7
◇研修用堤防を活用した点検実習の実施について	8～9
◆応急組立橋組立点検の実施	10
◇東北技術事務所の歴史を辿る～八ノ技～ 旧展示館の歴史 第二章	11～13
◆災害対策用機械の名称紹介、あとがき	14

# 「令和2年度 日本建設機械施工大賞」で優秀賞を受賞!!

## — 近接車両検知システムの開発 —

(一社)日本建設機械施工協会では、平成元年度から、建設事業の高度化に関し顕著な功績をあげた業績について『日本建設機械施工大賞(旧会長賞)』として表彰を行っており、この度、当事務所から応募した「近接車両検知システムの開発」が、大賞部門で「優秀賞」を受賞しました。

今回受賞したシステムは、除雪グレーダ後部に設置した検知センサーにより、自車線のほか左右1車線における後方接近車両を検知し、その情報をオペレータに知らせるシステム(右図参照)です。

これまででは、オペレータと助手の2人乗車であり、助手が「後方から接近する車両の監視と通知」を行うことで作業中の安全確保を行ってききましたが、排ガス規制の関係から1人乗り仕様のみとなったことから、助手の役割を担う新たな支援システムとして開発したものです。

主な特徴は次のとおり。

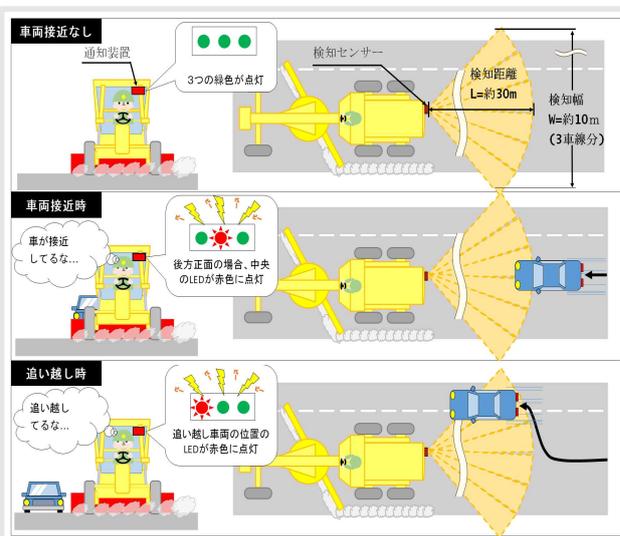
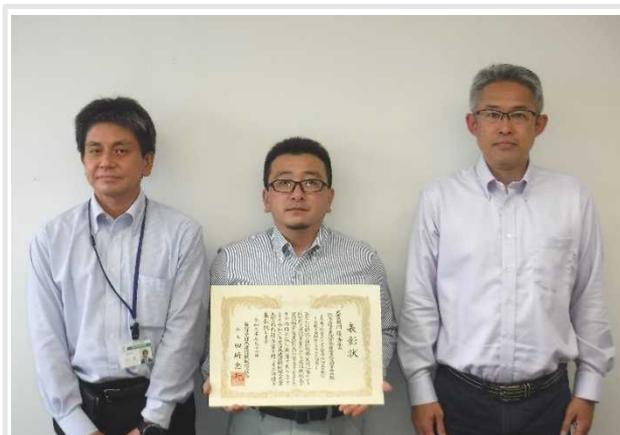
「検知装置」は、1つのレーダーセンサーで、車両中央後方・右後方・左後方の3車線をカバーし、後方30m程度から、時速5km以上の速度差で接近する車両を検知します。

「通知装置」は、未検知は緑色に、接近車両を検知すると赤色に点灯し、検知した車線に応じて赤色点灯する位置が変化することにより、接近する車両の方向が一目でわかるものとなっています。

実証試験の結果、1人乗り除雪グレーダにおいても2人乗りに近い環境を提供することが可能であり、これにより作業中の安全を確保することが可能となりました。

本システムは、除雪グレーダに限らず搭載が可能であり、広く普及することにより除雪作業の安全と効率化に寄与できれば幸いです。

最後に、開発にあたり関係者の皆様から多大なるご協力を頂きましたことを、この紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。



問い合わせ先：施工調査・技術活用課  
電話 番号：022-365-7983

# << 東北学院大と東北技術事務所による 共同研究について >>

## 「東北の骨材を使用したコンクリートのクリープ乾燥収縮に関する 共同研究の紹介」

東北学院大学と東北地方整備局は、大学の工学部と東北技術事務所が同じ多賀城市にあり以前から実験等を協力して取り組んできております。両機関は、社会資本の整備・維持管理に関し連携・協力関係をより強化し国土の防災機能の向上及び地域社会の持続的な発展に寄与することを目的に、平成26年1月に協定を締結しています。

協定に基づき、東北学院大学工学部 石川雅美教授が主導される「東北の骨材を使用したコンクリートのクリープ・乾燥収縮に関する研究」について、東北技術事務所は各種技術資料等への反映を念頭に、平成30年7月より石川教授と共同研究を行っています。

### （研究の目的）

一般にコンクリートの空気量が増加するとクリープ※係数が大きくなる傾向がある。これまで東北産の骨材を使用した空気量6%のクリープ特性は確かめられていないことから、空気量とクリープ特性の関係を確認することを目的に、空気量6%のコンクリートの材料性能などを研究するもの。

※「クリープ」とは：荷重が持続的に作用すると時間の経過とともにひずみが増大する現象

### （これまでの実施内容と今後の予定）

現在まで、空気量4.5%、6.0%、8.0%によるクリープ特性の比較等について、実証実験を行ってきています。

橋梁の上部工などでは空気量の上限はより慎重な検討が必要と考えられることから、引き続き実証実験を進め、コンクリートの空気量とクリープ特性の関係を確認していきます。



石川教授、学生、東北技術メンバーによる勉強会  
(R2年8月18日)



コンクリート供試体による実証実験(R2年7月29日)

問い合わせ先：維持管理技術課  
022-365-7971

# 令和2年度 基礎技術講習会 「第2回 土木」、「ICT・UAV」を開催 ～官民共同で若手技術者を育成！～

「第8回復興加速化会議」（平成29年12月16日）にて示された「～新たなステージへ～東北復興働き方改革プロジェクト」の一環として、加盟17団体の若手技術者を育成する「基礎技術講習会」『第2回 土木(土工、アスファルト、コンクリート、構造物設計)』、『ICT・UAV』を開催しました。

※ 今年度は新型コロナウイルス感染症対策(3密防止等)を考慮し、定員変更等の措置を講じて開催しました。  
(第1回土木:中止、ICT・UAV(山形会場、青森会場、現地見学会):中止)

「土木」は東北技術事務所で開催し、4講座で延べ65人(行政31人、業界34人)

(※ 第3回:11月9日～13日 開催予定)

「ICT・UAV」は東北6県・仙台市の7会場で延べ427人(行政198人、業界229人)

が、受講しました。※ 仙台会場(現地実習)は台風12号により中止 ※ 速報につき人数に修正が生じる場合もあります。

## 東北復興働き方改革プロジェクト(一部抜粋)

### 働く人々をサポート!(人づくり支援)

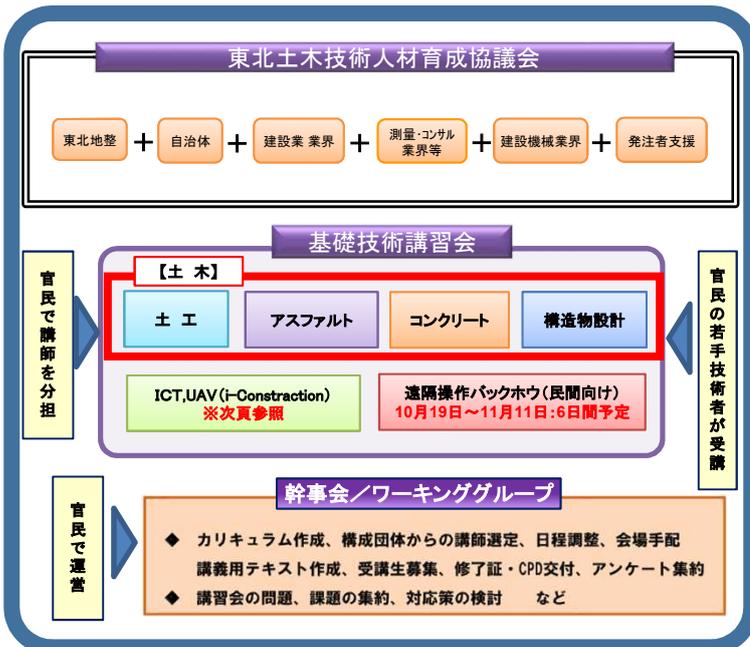
#### ● 講習会、研修などでサポート

- 自治体職員を含む人材育成協議会の活動推進
- 自治体職員の防災対応力向上試験(学び塾)

- 開催日時:令和2年9月7日(月)～11日(金)
- 講習内容:土工、アスファルト、コンクリート、構造物設計
- 開催場所:東北地方整備局 東北技術事務所
- 主催:東北土木技術人材育成協議会

参加団体:国土交通省東北地方整備局  
青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県、仙台市  
(一社)日本建設業連合会 東北支部  
東北建設業協会連合会  
(一社)建設コンサルタンツ協会 東北支部  
(一社)東北測量設計協会  
(一社)日本建設機械施工協会 東北支部  
(一社)東北地質調査業協会  
(一社)日本道路建設業協会 東北支部  
(一社)東北建設マネジメント技術協会  
(一社)東北地域づくり協会

## 官民合同技術講習会の枠組



講義名	参加人数	講師
土工 技術講習会	<官> 6名 (国:2, 自治体:4)	(一社)宮城県建設業協会 菅原 敬二 氏 中央開発(株) 橋本 智雄 氏
	<民> 9名	(株)ダイヤコンサルタント 山田 満秀 氏 東北技術事務所・土質試験室
アスファルト 技術講習会	<官> 5名 (国:2, 自治体:3)	日本道路(株)東北支店 加藤 学 氏 東北技術事務所・アスファルト試験室
	<民> 7名	
コンクリート 技術講習会	<官> 8名 (国:3, 自治体:5)	飛鳥建設(株) 笠井 和弘 氏 東北技術事務所・コンクリート試験室
	<民> 6名	
構造物設計 技術講習会	<官> 12名 (国:4, 自治体:8)	(株)復建技術コンサルタント 石橋 努 氏 (株)オリエンタルコンサルタンツ 北原 一彦 氏
	<民> 12名	
合計	延べ受講者数 <官> 31名 (国:11, 自治体:20) <民> 34名	純受講者数 <官> 16名 (国:7, 自治体:9) <民> 30名
		受講講座数 4講座 5名 2講座 4名 1講座 37名



▲土工基礎技術講習:実習 (R2.9.8)



▲アスファルト基礎技術講習会:実習 (R2.9.8)



▲コンクリート基礎技術講習:実習 (R2.9.10)



▲構造物設計基礎技術講習:演習 (R2.9.11)

#### 土工基礎技術講習アンケート

- 軟弱地盤の講習は大変わかりやすく、ためになった。
- 実務で土工に関する疑問が出た場合に、本講習のテキストを見直し、確認しようと思う。
- 施工事例は発生要因と対策方法選定プロセスが理解できたので良かった。
- 基礎知識や施工事例は、自社の現場で道路土工があるので大変参考になった。
- 土質試験も初めてだったが手本をみせてくれたのでわかりやすかった。

#### アスファルト基礎技術講習アンケート

- 基礎的な部分は実務の参考になった。
- 普段体験できない実習を行うことができ、とても良い経験となった。
- 実際に人力舗装の敷均しを体験して、温度による仕上がりの違いが目に見えてわかり、勉強になった。
- アスファルトに関する知識がほとんど無かったので、ためになりました。
- 基礎知識も勉強になったが、実習がとてもわかりやすかった。

#### コンクリート基礎技術講習

- とても理解しやすく、講義して頂いたので、勉強になりました。
- スランプ試験や圧縮強度試験を体験できて良かった。
- 一級土木を取得したいと思っているため、とても良い講習及び実習となった。
- コンクリートの練り混ぜについては、普段の業務では携わることがなかったので参考になりました。

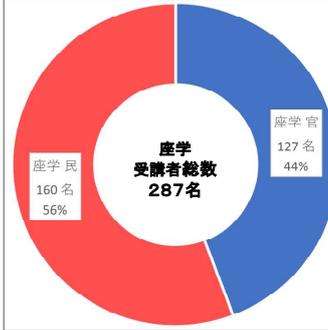
#### 構造物設計基礎技術講習

- 配筋図のチェックなど図面を確認する場面が多いので参考になった。
- 構造物の設計に関係する業務に携わったことのない人にもわかりやすい内容だった。
- 体験施設で鉄筋の配置など参考になった。
- 構造物の説明等が分かりやすく、実務の参考になりました。
- 設計(擁壁)に対するアプローチの仕方がイメージできました。実際に安定計算の演習が行えたのも大変ためになりました。

～ 座学の状況 ～

○ 座学は7会場で287名が受講しました。

- [カリキュラム 10:00～17:00] ( ) : 担当講師
- (1) 東北地方整備局におけるi-Constructionの取り組み
  - (2) (各県・仙台市)における取り組み
  - (3) 3次元測量の概要と留意点 (東北測量設計協会)
  - (4) ICT活用工事の監督・検査の留意事項 (東北地整)
  - (5) 点群ソフト、3D設計データ (日本建設機械施工協会)
  - (6) ICT建機 (日本建設機械施工協会)
  - (7) TS、GNSS 3次元計測 (日本建設機械施工協会)



**秋田県会場**  
月日: 9月2日(水) 場所: 秋田県自治研修所  
受講者: 官40名 民18名 計58名



**山形県会場**  
月日: 9月16日(水) 場所: 山形県村山総合支庁  
受講者: 官12名 民28名 計40名



**仙台市会場**  
月日: 9月23日(水) 場所: 仙台市役所  
受講者: 官4名 民18名 計22名



**福島県会場**  
月日: 9月28日(月) 場所: 福島テルサ  
応募者: 官23名 民17名 計40名



**宮城県会場**  
月日: 9月30日(水) 場所: 宮城県庁 講堂  
受講者: 官17名 民28名 計45名



**青森県会場**  
月日: 10月8日(木) 場所: 青森市文化観光交流施設  
受講者: 官17名 民22名 計39名



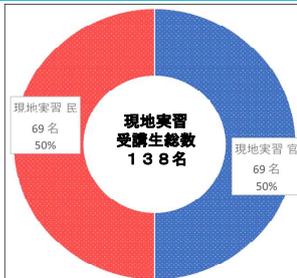
**岩手県会場**  
月日: 10月21日(水) 場所: 岩手産業文化センター  
受講者: 官14名 民29名 計43名



令和2年度 官民合同のICT・UAV技術講習会を東北4県会場で開催

～ 現地実習の状況 ～

- 現地実習は4会場で138名が受講しました。  
※山形、青森会場(現場見学)は新型コロナウイルス感染症対策等により、仙台会場(現地実習)は台風12号により「中止」しました。
- 秋田県、福島県、宮城県及び岩手県では民間の研修センター等を活用した「現地実習」として開催されました。
- 主なカリキュラム (計2時間)  
・ ICT建機施工、UAV操作体験、TS・GNSSローバー実習 など
- 担当講師: 東北測量設計協会、日本建設機械施工協会 等



**仙台市会場**  
月日: 9月24日(木) 場所: 日本キャタピラー 岩沼ICTセンター(岩沼市)  
応募者: 官4名 民20名 計24名

**台風12号により「中止」**



# i-Construction技術講習会

一般社団法人日本道路建設業協会及び東北地方整備局では、技術者に向けた建設技術の情報提供を実施しており、その一環として、技術者育成のための「i-Construction技術講習会」を開催しております。

平成28年度にi-ConstructionにおけるICT施工の土工に導入され、平成29年度には舗装工に導入が拡げられ、ICT舗装として直轄工事で実施されています。

本講習会では、i-Construction全般とICT舗装工の施工技術全般、TLS(地上型レーザースキャナー)の測量と出来形管理について学習する事を目的としております。

開催日時：令和2年9月25日(金) 13:00~17:00  
開催場所：東北技術事務所（宮城県多賀城市桜木三丁目6-1）  
主催：一般社団法人 日本道路建設業協会  
：国土交通省 東北地方整備局 東北技術事務所  
協力団体：一般社団法人 日本測量機器工業会

## 【講習内容】

- 東北地方整備局のi-Constructionの取組み
- 舗装のICT情報化施工技術
- 地上型レーザースキャナー(TLS)を使った測量と出来形管理
  - ・ 施工計画から電子納品に至るプロセス等の説明
  - ・ TLSによる出来形計測(3機種)
  - ・ ICT舗装工のソフトウェア構成とその流れ及び実例の解説
  - ・ レジストレーション、TLSの精度確認結果の解説
  - ・ 3次元点群データの処理、出来型の施工管理とデータの納品
  - ・ i-Con FAQ解説

## 【講習状況】



今年は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の取組として、例年より受講者数を約半数とし講習時間を短縮、検温や消毒、マスクの着用、実技ではビニール手袋を着用するなど細心の注意を払い実施されました。

## 【受講者の感想】

大変参考となりました。今後も参加したいです。今後の国の取組みを知ることができた。カリキュラムの時間を長くしてください。全体の講習時間が半日では詰め込みすぎた感じがします。

# インターンシップ報告

国土交通省では、大学等に在籍する技術系の学生を対象として、学習意欲を喚起し、高い職業意識を育成するとともに、国土交通行政に対する理解の増進に資するために、就業体験実習(インターンシップ)を行っています。

今年度の東北技術事務所インターンシップ活動内容をお知らせします。

実習期間: 令和2年8月24日(月)～8月28日(金) 5日間

実習生: 東北学院大学工学部3年生 2名

## 【実習内容】

	AM	PM
1日目	全体ガイダンス、各課紹介 材料試験実習(コンクリート)	体験型土木構造物実習(不具合施工) 材料試験実習(アスファルト)
2日目	橋梁点検(富谷市内) 道の駅おおさき視察	橋梁点検(南三陸町内) 道の駅三滝堂視察
3日目	道路保全調査概要説明 河川事業概要説明	TEC-FORCE活動概要 災害対策用機械見学、設営
4日目	河川管理施設点検現地実習	一関遊水池事業視察
5日目	成果レポートとりまとめ	成果発表

## 【実習状況】



材料試験実習



体験型土木構造物実習



橋梁点検現地実習



災害対策用機械見学



河川管理施設点検現地実習



成果発表

## 【実習生の感想】

- ・新しい構造物を建設するよりも、今ある構造物を長い間使用することが重要になると考え、より保全技術についての知識を深め、今後に生かしていきたいと考えました。
- ・東北技術事務所の仕事内容はとても幅広く、土木構造物の建設に最初から最後まで携わることができるため非常にやりがいのある仕事だということを感じました。

# 研修用堤防を活用した点検実習の実施について

河川の現場では、施設の老朽化等が原因と思われる堤防等の変状や損傷が発生していますが、危険とされる変状や損傷は河川管理上早急に修繕されるため、河川管理を担当する職員が、変状の実物を確認する機会は非常に少ないのが実情です。

そのような背景から、河川管理を担当する職員が変状を見逃すことなく、損傷の程度を判断し、適切に対応することができるよう点検実習を行うための施設として、東北技術事務所の構内に研修用堤防を整備しました。この施設は、いつでも堤防等の変状や損傷を現実的に体験できる施設として、堤防や樋門に発生する状況を再現しています。

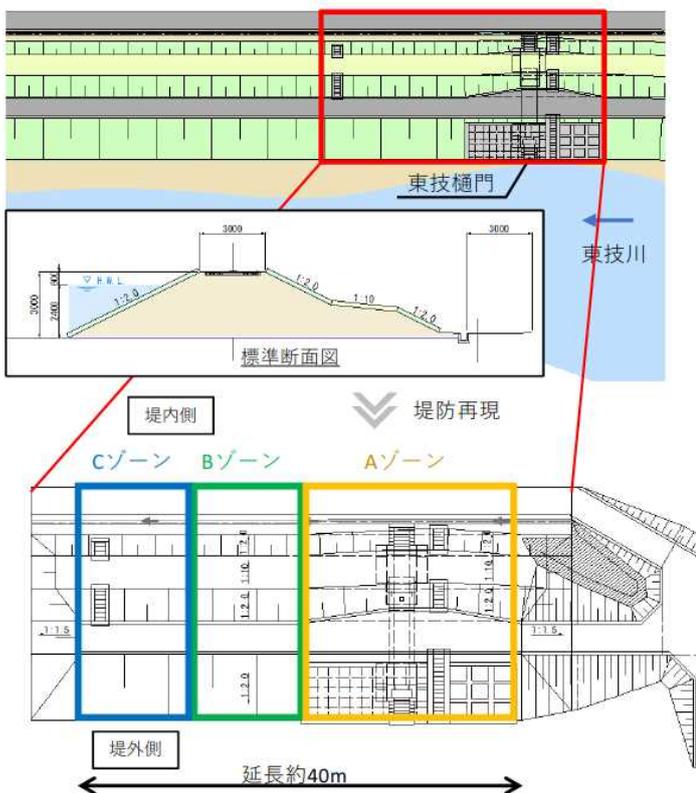
整備後初めて実施される令和2年度河川管理実務者研修において、この施設を活用して点検実習を行いました。



▲研修用堤防の全景

## ◆研修用堤防の概要

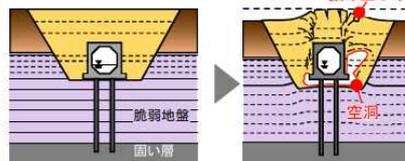
施設は、「土堤部」、「樋門」、「取付護岸及び付帯施設」で構成され、変状要因により、3つのゾーンに分けて変状を再現しています。



### Aゾーン

※Aゾーンの樋門の変状は一部、「柔構造」の変状も再現し、参考として「施工不良」も追加している。

Aゾーンは剛支持樋管を想定し、土堤と樋管で支持機構が異なることにより発生する変状を再現しています。



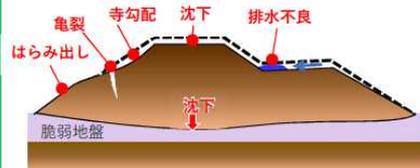
▲Aゾーンの変状発生イメージ図



▲抜け上がり

### Bゾーン

Bゾーンは軟弱な基礎地盤上に築堤した際に発生する変状を再現しています。軟弱な地盤の上に盛土をすることで堤防全体が沈下し、様々な変状が発生します。



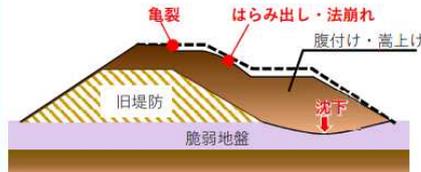
▲Bゾーンの変状発生イメージ図



▲排水不良

### Cゾーン

Cゾーンは旧堤部に腹付け・高上げ盛土をした際に発生する変状を再現しています。地盤が軟弱な個所では盛土個所で沈下し、様々な変状が発生します。



▲Cゾーンの変状発生イメージ図



▲亀裂

## ◆点検実習

研修用堤防を活用し、樋門周辺に発生する変状や、軟弱地盤上の築堤に起因して発生する変状の種類について確認を行い、各変状の点検方法や評価区分について実習を行いました。

◇研修名： 令和2年度 河川管理実務者研修

◇日時： 令和2年10月28日(水)

◇研修生： 11名(整備局職員及び県職員)

### 【点検実習の状況】



▲ 抜け上がりの計測



▲ 樋門周辺の陥没の確認



▲ 樋門函体の沈下量計測



▲ 止水板の破断状況確認



▲ 護岸ブロックの段差計測



▲ 樋門門柱の傾倒計測



▲ 打音による護岸の空洞化確認



▲ 堤防天端の亀裂の深さ計測



▲ 堤防開削断面の確認

### ◆受講生のコメント

- ・実際に起きている堤防の変状について見たことがなかったので、研修堤防で見ることができ、とても勉強になりました。
- ・発生する変状がどんな箇所にもどう現れるかを目で確認するのは理解しやすい。
- ・目視で確認ができてわかりやすかった。

# 応急組立橋組立点検の実施

東北地方整備局  
東北技術事務所

応急組立橋は、現地で組立を行うことができる仮設橋で、緊急輸送路を確保する重要な役割を担っています。

東北技術事務所では、災害時に迅速に対応できるよう、機能保持を目的とし組立点検を実施しました。

・期間：令和2年9月1日～9月18日

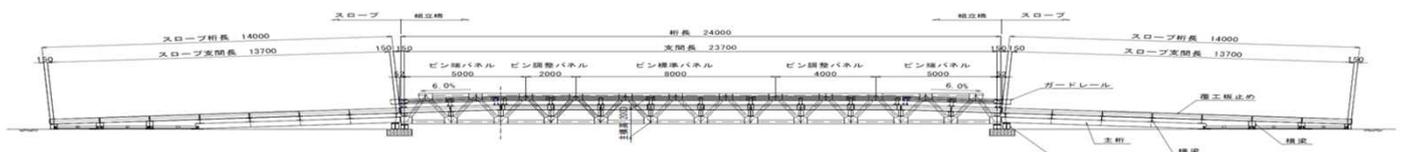
・場所：東北技術事務所構内

## 点検概要

本橋最大40mのうち今回の点検では、**本橋24m・ガードレール・スロープ**左右の組立点検を実施。

※東北技術事務所では、応急組立橋を2橋保有しており一橋につき2年のサイクルで組立点検を行っています。

応急組立橋 B-C2401 (1車線橋)



## 見学会の実施

応急組立橋を知って頂くため、**主跨端部組立・主跨一括架設・横桁取付け・覆工板取付け**をご覧いただく関係者向け見学会を実施。

実施日：令和2年9月8日

・協定業者のほか宮城県、山形県、青森県の担当者様にもご参加頂きました。また、報道公開（テレビ局3社、新聞1社）を行い、当日夕方のニュースで放送されました。

## 参加者

自治体関係者 7名  
協定業者 17名  
管内職員 15名  
報道関係 4社（7名）

**合計46名**

「大規模災害」での緊急出動に備え、不具合が無いか確認を行うとともに、迅速に対応できる体制造りに役立っています。

問い合わせ先：防災・技術課  
電話番号：022-365-5897

シリーズ 第8回目

# 東北技術事務所の歴史を辿る たど

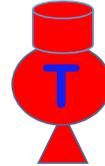
## ～ 八ノ技 ～

毎回、東北技術事務所の歴史を紐解いてきております「東北技術事務所の歴史を辿る」シリーズの第8回目です。前号より、今年度解体となる東北技術事務所内にある「旧東北技術展示館(現倉庫)」の歴史を辿ってきており、旧展示館の前身である機械工場の歴史についてお伝えしました。今号は、東北技術展示館時代についてご紹介いたします。



フォルモス  
事務局

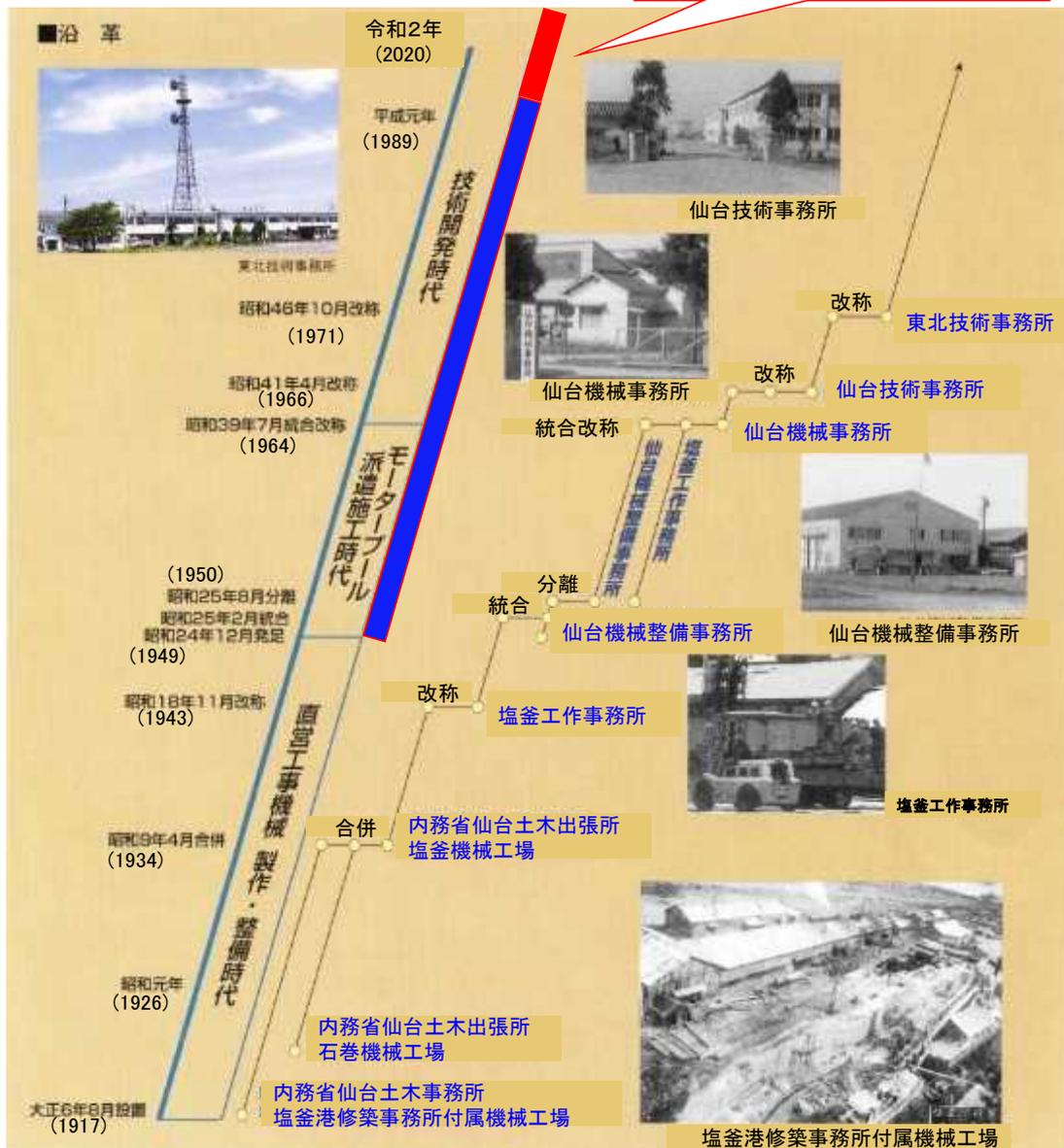
いよいよ展示館の全盛期のお話ですね！！  
どのような感じだったのでしょうか！  
師匠！どうぞよろしくお願ひします～！！



“東技師匠（総合部門）”

東北技術事務所の歴史は、  
私をご紹介いたしましょう！

**この時代！！**  
**(青色は前身の機械工場時代)**



## 旧展示館(元第一工場(機械))の歴史 ～第二章～

「東北技術展示館」の歴史は、大正6年8月塩竈市の「内務省仙台土木出張所塩釜港修築事務所付属工場」から始まります。その後、昭和25年11月10日、旧海軍多賀城工廠第三爆弾装鎖場より所管換された現在地の多賀城市に東北技術事務所の前身である仙台機械整備事務所と改名し設置されております。その**第一工場**として産声を上げました。

焼け野原と化した戦後の国土を一日でも早く復旧し復興を成し遂げるためには、**大型の土木機械**を用いた施工が不可欠とされておりました。第一工場の役割は、この**土木機械の技術開発や製作修理**といったものでした。当時の復旧工事が大きく前に進み、後への復興へと繋がり、やがてやってくる高度経済成長期のインフラ整備の一翼をも第一工場が確かな力で支えていたといった歴史の1ページがあります。

しかし、社会が成熟すると共に少しずつですが時代は全ての変革を迫り、大きなうねりとなって我々の職場へもやって来ました。それは土木機械の開発整備はもとより、インフラ整備についても**直轄による施工から請負いへ**といった時代の要請でした。その波の影響は第一工場にも及び平成2年にはその役割を終え惜しまれながらも75年間の永い歴史に終止符を打つことになりました。

←っ！時代のうねりなのですね～！



フォルモス  
事務局

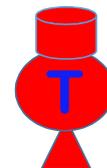


展示状況① 歴史のある工作機械の紹介



展示状況② 除雪機械の紹介

展示館内には順路を示し、機械コーナーや道路、河川の紹介コーナーがありました。



“東技師匠（総合部門）”

依然として第一工場内には、長年に亘り工作機械として活躍した昭和14年12月日立工作(株)製のフライス盤という金属材料を削って加工する機械を始め、沢山の**歴史的価値の高い工作機械**があることから、一時代を支えたこれら工作機械や建設機械の展示を通して我々が担っている事業に対する理解を広く深めていただくため**平成3年3月**に「東北技術展示館」は開館いたしました。

当時の所内報「東北技術NO74(1991年7月号)」には、「伝統ある業績と各所に点在している資料等を一堂に収集整理し「**開発の歴史を保存し、明日への建設技術開発の起源**」と位置づけ、**広く建設事業に対する関心と意義の啓発に資する目的**で「東北技術展示館」の設立が検討され、平成3年3月に開設された。」とあります。

また、同年6月5日・6日の両日に亘り「**新技術公開”EE東北91”**」が東北技術事務所構内で開催され約1200名の方が入館され好評を博したとの記録もあります。



展示状況③ 道路について紹介



展示状況④ 河川について紹介

なるほど！！



フォルモス  
事務局

## 旧展示館(元第一工場(機械))の歴史 ～第二章～



平成13年5月にリニューアルした展示館内部（模型やビデオ放映などで様々な体験や学習ができました）

開館以来、未曾有の大災害である東日本大震災の日までに多くの見学者を受け入れてきた「東北技術展示館」でしたが、津波による建物の損壊はもとより展示物に至るまで大きな被害を受けることになりました。これらの修復には莫大な費用と時間がかかることに加え建物自体の老朽化もあることからやむなく再出発を断念せざるを得なくなり建物を取り壊すことが決定されました。



東日本大震災被災当時の写真（東北技術事務所構内は避難先にもなりました）

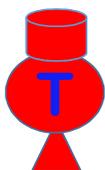


解体を待つ現在の旧展示館

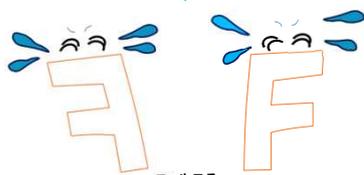
今年度より建物は解体され新たな時代へと歩み出すこととなりますが、それと共に昔を知る方にとっては、さみしい気持ちにもさせられます。

何はともあれ、明日に向かってがんばっぺし！！

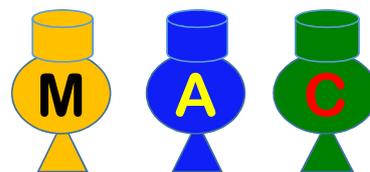
総合部門師匠！歴代の師匠！いろいろ教えて下さってありがとうございました！がんばります！



“東技師匠（総合部門）”  
Master Chubachi



フォルモ入  
事務局



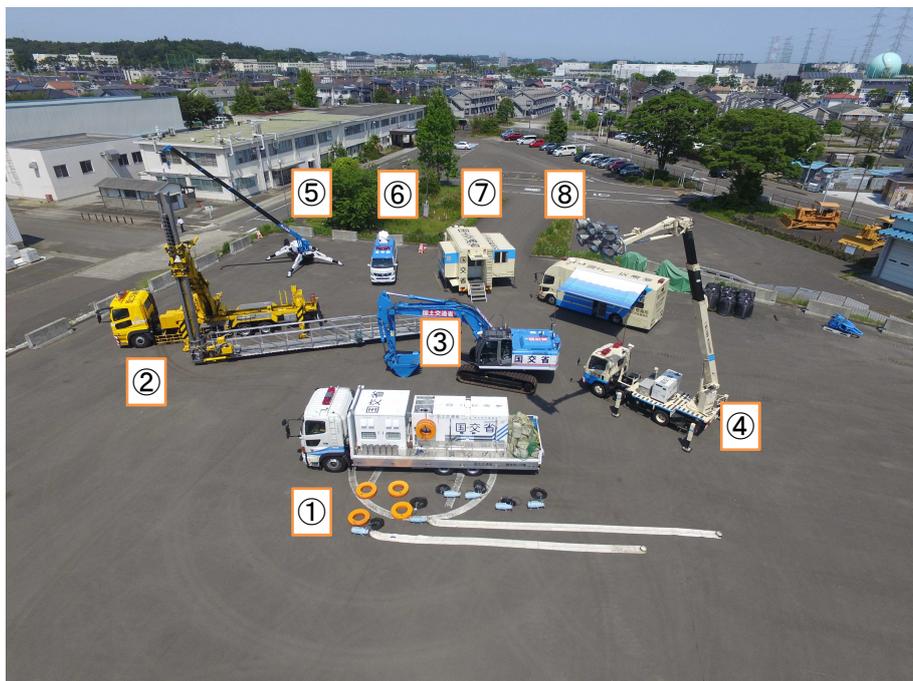
- |                 |                  |                  |
|-----------------|------------------|------------------|
| “東技師匠（機械部門）”    | “東技師匠（アスファルト部門）” | “東技師匠（コンクリート部門）” |
| 第1回目            | 第3回目             | 第6回目             |
| 第2回目            | 第5回目             | Master Shimamura |
| Master Miyamoto | Master Kaminishi |                  |
| 第4回目（2代目）       |                  |                  |
| 第7回目（2代目）       |                  |                  |
| Master Nunomiya |                  |                  |

ともに歴史を！

「東北技術事務所の歴史を辿る」(第1～8回)をシリーズでお送りしてきましたが、ここまできがでたでしょうか。東北技術の歴史、まだまだ辿っていきます！今後の掲載もお楽しみに！

## 災害対策用機械の名称紹介

【表紙写真】東北技術事務所が所有する「災害対策用機械」の名称をご紹介します。



- ① 排水ポンプ車
- ② 橋梁点検車(歩廊式)
- ③ 分解対応型遠隔操作式バックホウ
- ④ 照明車
- ⑤ 小型クローラクレーン
- ⑥ 衛星通信車
- ⑦ 対策本部車
- ⑧ 待機支援車

災害対策用機械の目的や特徴は東北技術事務所ホームページで紹介しています。



[東北技術事務所HP](#)  
【災害支援】  
→【災害対策用機械】

## 事務局から

まだまだ残暑が続くかと思っていたところ、一気に秋が訪れもうすぐ冬へと切り替わっていく頃になってしまいました。

今年は、令和2年7月豪雨対応で排水ポンプ車などが出動した以外、大きな災害がない年で(希望的観測も含め)終わりそうです。しかしながら、本号報告の応急組立橋の架設点検において、TV局も3社取材に来るなど、昨年度の台風19号で大きな被害を受けたことから、未だ災害に対する関心が高いのは嬉しいところです。

さて、未だ収束が見えないコロナ禍では、リモートなど新しい働き方が進められている中、国土交通省においてもこれに対応するインフラDX(デジタルトランスフォーメーション)の取り組みが始まりました。このインフラDXは、コロナ禍を契機とした非接触・リモート型の働き方への転換と抜本的な生産性・安全性向上を図るためインフラ分野のDXを推進するもので、現在東北技術事務所においてもデジタル・3D活用のための人材育成を実施すべく準備を進めているところです。

奇しくも来年度は、東北技術事務所設立50周年を迎えます。戦前の当事務所の前身から始まる直営工作時代からモータープール時代、現在の技術開発時代と事務所変遷が整理されていますが、来年度以降は後世で「デジタル化時代への転換」とでも言われることになるのでしょうか(ちょっと大げさかもしれませんがw)。紹介できる段になりましたら、本WEB Formosusで紹介していきたいと思いますので、乞うご期待を。

最後に、今年はこのまま災害がなく春を迎えられることを祈念したいと思います。(I記)

発行元

国土交通省 東北技術事務所 WEB formosus(フォルモス)発行事務局  
〒985-0842 宮城県多賀城市桜木3丁目6-1 TEL022-365-8211(代表)  
フォルモス事務局 品質調査課

FAX 022-365-7988

E-mail : [thr-tougi02@mlit.go.jp](mailto:thr-tougi02@mlit.go.jp)

事務所ホームページ <http://www.thr.mlit.go.jp/tougi/index.html>